

風しんに注意しましょう！

1. 風しんとは

風しんは、風しんウイルスの感染によって起こる感染症です。免疫を持たない人は、ウイルス感染後2週間から3週間の潜伏期間の後発病し、**発疹、発熱、リンパ節の腫れ**がみられます。また、妊娠初期に感染すると胎児感染をおこし、赤ちゃんが白内障や難聴、先天性心疾患を特徴とする先天性風しん症候群を発症する可能性が高くなります。治療は対症療法が中心になります。



風疹の発疹

2. 発生状況

東京都では2018年9月23日までに239件の届出がありました。**年齢階級別性別では20歳代から50歳代で予防接種歴無又は不明の男性からの報告が増加しています。**

※196名中ワクチン2回接種者は1名、1回接種者は8名、他187名は接種歴無又は不明

3. 予防について

風しんウイルスは飛沫・接触感染をおこします。予防にはワクチンが有効です。風しん罹患歴がない、またはワクチン接種歴が1回も無い人、抗体検査で免疫がない人はワクチンの接種を検討してください。



※ 以下の方は、検討を特にお願いします。

- ① 30歳代から50歳代の男性（抗体価が低い方が2割程度存在しているとされています）
- ② 妊婦のパートナー、子供及びその同居家族 ③ 妊娠を予定又は希望する女性

4. ワクチン接種について

定期予防接種	定期外予防接種
原則的に麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）を1期2期の期間において2回接種。	任意接種として麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）、風しんワクチンの接種が可能。
定期予防接種対象者	定期外予防接種対象者
1期：1歳以上2歳未満 2期：5歳から7歳未満で小学校就学前1年間	定期予防接種の期間にない人で 風しん罹患歴がない、またはワクチン接種歴が1回も無い人、抗体検査で免疫がない人

※MRワクチン風しんワクチンは妊娠中の方は接種できません。また、接種後2ヶ月程度は妊娠を避けるなどの注意が必要です。上記対象者以外の方で接種を希望される方はかかりつけ医にご相談ください。

5. 医療機関受診の際には

発熱や発しん、リンパ節の腫れなどの症状が出て、風しんが疑われる場合は、事前に医療機関にそのことを電話連絡してからマスクをして受診してください。また、風しんにかかった場合は、医務室までご連絡ください。

※お困りの事がありましたら、下記までご相談ください。

【お問い合わせ先】

和光大学 医務室（G棟1F） 電話:044-989-7498 平日9:30~16:30（13:00~14:00除く）